

近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究 (①必修07-15-5/5)

目 的

近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等に大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型建造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

成 果

1. 産業遺産の保存と修復：産業遺産の保存理念と修復理念に関して海外事例も含めた現地調査を行い、研究会を実施した。
2. 屋外展示物：屋外展示されている大型建造物、鉄道車両や航空機等の文化財の防錆対策の研究を実施した。
3. 建造物・構造物：佐渡金銀山遺跡等史跡指定地内に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を行った。
4. 報告書：前年度の研究会をまとめた報告書及び前年度に観光した報告書の英語版を刊行した。

報告

- ・中山俊介「洋紙の保存と修復」『洋紙の保存と修復』東京文化財研究所 pp.5-10 16.3
- ・中山俊介「近代文化遺産としての道具の保存」『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』東京文化財研究所 pp.47-52 15.9
- ・中山俊介「道具の保存と活用」『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ 報告書』東京文化財研究所 pp.7-13 16.3
- ・中山俊介「Conservation and restoration of modern textiles」『Conservation and restoration of modern textiles』東京文化財研究所 pp.5-11 16.3

発表

- ・中山俊介「近代文化遺産の保存理念と修復理念」近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会 東京文化財研究所 16.1.15
- ・中山俊介「近代文化遺産の保存と修復について」シンポジウム「国産旅客機の開発とその意義」東京大学安田講堂 15.7.28
- ・中山俊介（基調講演）「近代文化遺産の保存と修復—産業遺産を中心に—」全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会2015愛知研修大会 勝川パレット会議室 15.11.6
- ・中山俊介「道具の保存と活用」無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ（染色技術と地域の関わり）東京文化財研究所 15.11.11
- ・中山俊介「葦山反射炉本体の修復に向けて」伊豆の国市世界遺産シンポジウム 葦山時代劇場大ホール 16.3.5

刊行物

- ・『洋紙の保存と修復』東京文化財研究所 16.3
- ・『Conservation and restoration of modern textile』東京文化財研究所 16.3

研究組織

○中山俊介、朽津信明、早川典子、森井順之、石田真也、小林芳妃、山府木碧（以上、保存修復科学センター）、小堀信幸、横山晋太郎、長島宏行、堤一郎（以上、客員研究員）

近代の文化遺産の保存修復に関する研究会 (①必修07-15-5/5の一部として実施)

平成26年度は、「富岡製糸場と絹産業遺産群」そして平成27年度には「明治日本の産業革命遺産」とユネスコ世界遺産への登録が続き、近代文化遺産が注目されており今後も近代文化遺産が世界遺産登録されることが期待されている。

これまで近代文化遺産の修復に関して、採用されてきた手法は、江戸時代以前までの建造物などに適用されてきた手法が準用される形であった。しかし今後、さらに修復の件数も増えることが予想される、近代文化遺産の特徴の一つでもある多種多様な材料が使われた文化遺産の修復作業に関して、いつまでも江戸時代以前までの修復手法の準用では対応しきれなくなるのは自明であり、早急な対応が望まれる。その際に重要となるのは近代文化遺産の修復理念であり、その土台となる保存理念である。

今回はこれまで、行われてきた保存・修復工事や計画されている修復工事などに関して、どのような保存理念や修復理念が適用されたのか検証しながら、今後必要となる保存理念や修復理念についてどのように考えていけばよいのか様々な分野の方々を招き研究会を実施した。

第29回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「近代文化遺産の保存理念と修復理念についての研究会」

日時：2016（平成28）年1月15日（金）10:00～17:15

会場：東京文化財研究所 セミナー室

講演：中山俊介（東京文化財研究所）「近代文化遺産の保存理念と修復理念」

ロルフ・フーマン（ドイツ・産業考古学事務所長）「Large Scale Industries Preservation and Conservation」

伊東孝（産業考古学会会長）「近代文化遺産の保存理念と修復理念について考える—産業遺産の活用を通して—」

木村勉（長岡造形大学教授）「近代文化遺産の保存理念と修復理念 近代洋風建築・近代化遺産の現状・課題」

鈴木淳（東京大学大学院教授）「近代文化遺産の保存理念と修復理念 産業技術史の観点から」

IPMフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」

(①必修02-15-5/5の一部として実施)

IPMフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」を2015（平成27）年7月16日に開催した。モントリオール議定書締約国会議による2005年からの臭化メチル使用全廃、その10年という節目に、これまでの活動をふりかえりつつ、現状での文化財分野のIPMの活動状況、進展や問題点も含めて情報を共有し、現在の課題と、今後必要な方向性を考えるための場とすることを目的とした。講演者からは、日本や世界の国々での燻蒸やその後のIPMへの取り組みの紹介や、各館の様々な取り組みについていろいろな角度からの報告があり、有意義なフォーラムとなった。

日時：2015（平成27）年7月16日（木）10:00～17:15

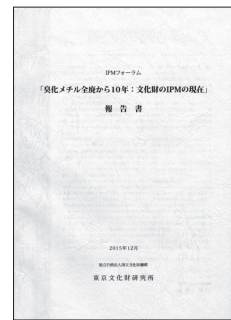
会場：東京文化財研究所 セミナー室他

参加者：200名

講演者：亀井伸雄（東京文化財研究所）「開会挨拶」

『IPMフォーラム 臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』（①必修02の一環として実施）

本報告書は、2015年7月16日に開催したフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」の各講師の講演内容を基に論文集として取りまとめたものである。モントリオール議定書締約国会議による2005年からの臭化メチル使用全廃、その10年という節目に、これまでの活動をふりかえりつつ、現状での文化財分野のIPMの活動状況、進展や問題点も含めて情報を共有し、現在の課題と、今後必要な方向性を考えた概論や事例研究の論文を掲載している。報告書の幅広い活用をめざし、掲載論文のPDFファイルをインターネット上で公開した。2015年12月刊行、84ページ。



『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書 2015年度』（①必修06の一環として実施）

劣化が著しい文化財建造物の塗装彩色材料や漆塗装を有する考古資料などの各種文化財における伝統技術及び材料の調査を行い、実際の修理施工に役立てることを目的としたプロジェクト「文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究」の本年度の活動と五カ年計画の総括を行った報告書である。報告書では、①調査研究報告として、表装裂試料データベース目録一覧、②本年度開催した研究会の報告として各発表の要旨、③本プロジェクト研究五カ年の総括、を掲載した。2016年3月刊行、87ページ。



『未来につなぐ人類の技15—洋紙の保存と修復』（①必修07の一環として実施）

本書は、2014（平成26）年11月に東京文化財研究所で開催した研究会「洋紙の保存と修復」に関して、元国立国会図書館副館長、脱酸処理技術などによる資料保存を行う企業担当者、装こうの修復技師、メキシコとカナダの国立公文書館にて修復作業を担当している方々による講演と、質疑応答の抜粋をまとめたもの。2016年3月刊行、79ページ。



Conservation and Restoration of Modern Textiles (①必修07の一環として実施)

本書は、2016（平成26）年3月に発行した、「近代テキスタイルの保存と修復」の英訳版。博物館、美術館の保存修復部門の方々、研究機関の修復室の方、更には染織品修復師の方等による、近代テキスタイルの保存と修復に関する講演録。2016年3月刊行、77ページ。

